

2006

川上ダム通信 2月号

発行者
独立行政法人水資源機構
川上ダム建設所
〒518-0294
三重県伊賀市阿保 251 番地
TEL : 0595-52-1661 (代)
<http://www.water.go.jp/kansai/kawakami>

『川上ダムと向き合って』

地域を学ぶ学習会



講演する高尾好一氏

2月23日(木)、元伊賀市青山支所ダム周辺整備課長の高尾好一氏を講師に招いて、17年度第2回目の地域を学ぶ学習会を開催し、川上ダム職員の他、近隣事務所の職員併せて約40名が参加しました。学習会では「川上ダムと向き合って」と題し、地元行政の立場から川上ダムに関わってこられた経験を基に話していただきました。

高尾氏は「青山町に国家プロジェクトが来ることに対する期待や不安、水没移転者と信頼関係を築くことを大事にしたこと、

周辺整備計画事業の取りまとめに時間がかかったことなど

苦労が多かったが、一つ一つ話し合いながら進めてきた。その中で一番印象に残っているのは、補償基準の調印式だった。古川委員長が印を押す時の静寂さは感慨深いものがあり、このような調印式に立ち会えたことは、自分としても貴重な経験であった」などの話しをしていただきました。最後に「私は『迷ったら現場に行け』という現場主義を信条としてきた。これからも地域との連携を深め、事業推進に向けて頑張ってください」との激励の言葉をいただきました。【総務課 山口哲政】



講演会の様子

自分らの地域をクリーンアップ!!



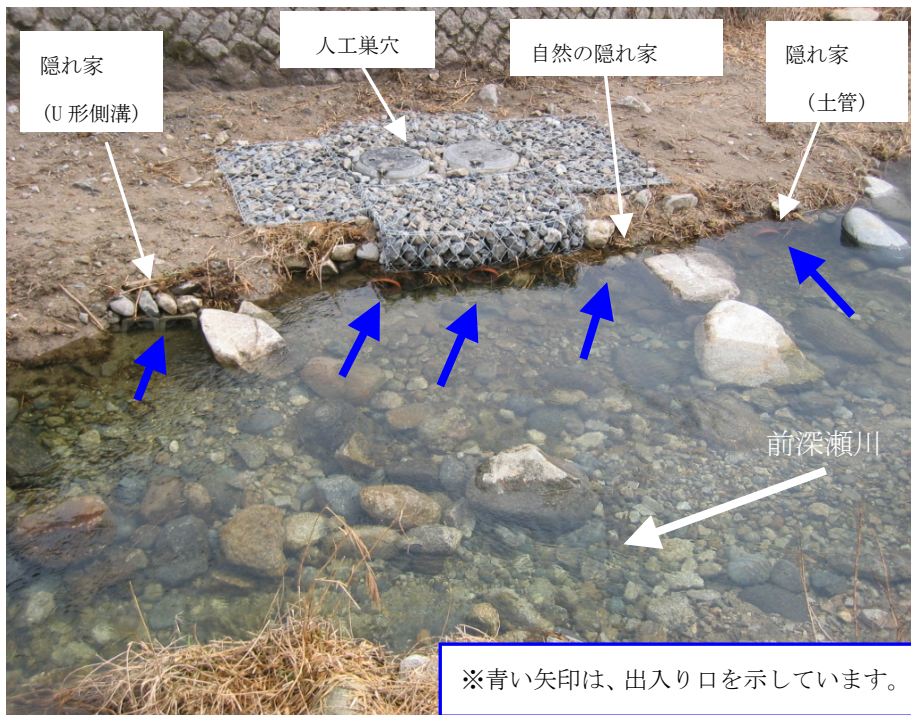
清掃活動の様子と集まったゴミ



2月18日(土)、水資源機構労働組合川上支部青年婦人部では、毎日の通勤に使っている名張駅までの約1kmに渡って清掃活動を行いました。道路脇には、たばこの吸殻から空カン、ビニール傘など数多くのゴミが落ちており、1時間ほどの作業で45ℓ入りの袋が6つ満杯になりました。

今後も青年婦人部では清掃活動を継続していきたいと思えます。皆さんもまずは身近な家の周りから地域をきれいにしていきましょう。【工務課 田中幸志】

オオサンショウウオ繁殖環境の改善を目指して ~人工巣穴を設置~



※青い矢印は、出入り口を示しています。

川上ダム建設所では、オオサンショウウオが前深瀬川や川上川のどのような場所で繁殖しているかを調査していますが、川上川に比べ、前深瀬川では繁殖していると思われる巣穴の数が少ないため、繁殖環境の改善を目的として、高尾地区にオオサンショウウオの人工巣穴及び隠れ家を設置しました。

人工巣穴は、オオサンショウウオ保護池で産卵実績のあるコンクリート製のマンホールを2基設置し、隠れ家は、

人工巣穴の上下流に1箇所ずつ、U形側溝を逆さまにしたものや土管を埋設しました。施工箇所には、オオサンショウウオが隠れることができそうな隙間(写真「自然の隠れ家」)があったので、そのような場所は、極力残すように配慮して工事を実施しました。今回設置した人工巣穴や隠れ家が、早く現地に馴染み、オオサンショウウオが快適に利用してくれることを期待しています。

【環境課 古賀勝之】

『文化勲章は郷土のおかげ』 ~沢田敏男先生が郷土青山で講演~

2月4日(土)、本年度の文化勲章を受章された元京都大学総長、沢田敏男先生の記念講演会が伊賀市青山ホールにて開かれました。「文化勲章を受章して~育まれた郷土に感謝~」と題された講演会には総勢約400人が集まり、水資源機構からも青山理事長、中嶋関西支社長、川上ダム職員23名など約40名が参加しました。



講演する沢田敏男先生



講演会風景

沢田先生は旧青山町生まれで、農業工学の分野でかんがい用の諸設備の研究において特に優れた功績をあげられており、国内はもとより国際的にも高い功績を認められ、今回の文化勲章受章となったものです。

講演では、「少年時代に手伝った農作業での素朴な疑問が出発点となり、自然災害に強い農村をつくりたいという思いから農業工学の道を志した」ということ、川上ダムに対しては「川上ダムは効率的なダムで、地質的にも安全性の高いダムであり、この地域の発展にも役立つダムだ。若い技術者にも頑張ってもらいたい」とのメッセージをいただきました。川上ダムの職員として大変勉強になり、身が引き締まるような感銘を受けた講演内容でした。

【第二用地課 城戸伸悟】

川上ダム事業進捗状況の紹介

付替県道松青線第5工区落石防止(その3)工事

本工事は、付替県道松阪青山線施工区間のうち落石の危険性がある約560mについて対策を行う工事です。小さい石に対しては、その石が道路まで落ちないように柵（落石防止柵）を斜面上に設置し、柵で防げない大きい石は破碎して小割にします。施工する落石防止柵は、斜面上に等間隔で支柱を埋め込み、その支柱の間にネットを張るというものです。3月末までの工事となっていますが、安全第一で作業を行い、付替道路がより安全な道路となるよう工事を進めていきたいと思っております。

【工事課 松岡大吉】



落石防止柵設置概要図



夜間の交通誘導の様子

スムーズな仮回しを願い、交通誘導を実施 ～付替県道青美線第3工区(その3)工事で～

現在、前深瀬川上流の小川内地内において、川上ダム建設事業範囲の最上流部分となる「付替県道青山美杉線第3工区(その3)工事」を施行中です。

1月23日(月)に仮回り迂回路に一般交通を切り替えたわけですが、仮回り当初の2日間、当建設所の工事課員が交通誘導を行い、切り替えの周知と交通安全意識の喚起に努めました。当日の夜は気温0℃以下と冷え込む中、通過する車を誘導しながら、瞬く星たちに工事の安全な完了を祈りました。皆さまの更なるご協力をよろしくお願いいたします。

【副所長 青山太洋】



日中の現場の様子(H18.1.27撮影)

新技術の紹介～スカイテーション(高所作業車)

今回は、株式会社タダノ、ハラダ総業が開発した『スカイテーション』を紹介いたします。

「超高揚程・高所作業車」スカイステーションは、作業台足場が長さ7.7m×幅3.0m、畳14枚分の作業スペースを持つデッキであり、最大積載荷重6,700kg、最大地上高55m、最大作業半径35mの能力であり、災害防除工事における機械作業を想定して開発したものです。

超高所作業、斜面作業する時の作業台足場を場所及び斜面の縦横を問わず、作業機械や人間を載せたまま容易且つ安全に移動できるため、従来、命綱だけを頼りに行われていた岩盤削工、現場吹付法枠などの危険度の高い人力作業が無くなり安全性が飛躍的に向上します。



【国土交通省ホームページ：新技術情報提供システム(NETIS)より参照】



建設所入口に設置された園児が描いた絵

園児の笑顔が迎える建設所

川上ダム通信12月号に青山よさみ幼稚園の園児の工事現場見学会(11月30日)の記事を掲載しましたが、後日、よさみ幼稚園から見学会のお礼として、園児が描いた絵をいただきました。1月下旬から川上ダム建設所入口に掲示しており、来客者の目を楽しませています。

当建設所は地域に開かれた事務所を目指しております。建設所に一度お立ち寄りいただき、園児の絵をご覧ください。【通信記者 武村剛泰】

【通信記者 武村剛泰】

伝統の技がキラリ☆くみひもストラップ

川上ダム建設所では、職員の名札を首から吊すための備品として、伊賀の伝統工芸品・伊賀くみひもを使った特製ストラップを作成しました。地域との一体感を醸成する目的で作成したもので、全部で4色あり、編み上げられた紐の繊細な美しさが光るストラップです。今後も地域に根ざした取り組みを行っていききたいと思います。【通信記者 武村剛泰】

今後も地域に根ざした取り組みを行っていききたいと思います。【通信記者 武村剛泰】

EVENT

伊賀路ウォーク～和銅の道と島ヶ原名所めぐり～

島ヶ原地区の各名所を巡り、豊かな歴史や自然にふれる健康ウォーキング。三本松の池、島ヶ原大橋、正月堂などを巡ります。約10.5km。

○日時/3月5日(日)10時～15時頃

受付9:30(小雨決行)

○集合場所/島ヶ原温泉やぶっちゃんの湯まめの館前(伊賀市島ヶ原)

奈良二月堂松明調進

東大寺二月堂のお水取りに使う、松明(たいまつ)を調進する伝統行事。3月10日(金)に極楽寺(名張市赤目町一の井)で法要し、12日(日)に二月堂に奉納されます。

ライトピアおおやまだ梅まつり

ライトピアおおやまだの西側に広がるふるさと梅林が満開になる頃、露の新治さん、桂三象さんらを迎えて、地域交流事業として梅まつりを開催します。

○日時/3月24日(金)19時～

○場所/ライトピアおおやまだ(伊賀市奥馬野)



くみひもストラップ

編集後記

高尾好一氏を招いての地域を学ぶ学習会では、長年川上ダムに関わってこられた経験をもとに貴重なお話を伺うことができました。高尾氏が言われた「迷ったら現場へ行け。現場には問題点もあるが答えもある」という現場主義の言葉が強く印象に残った学習会でした。

広報誌発行事務局

編集長	恒吉	徹(川上ダム建設所長)
デスク	上村	信幸(総務課長)
〃	二林	修(工務課長)
通信記者	武村	剛泰(総務課)
〃	田中	幸志(工務課)